男のホンネ 女のホンネ

「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」というライフスタイルから、
生活環境が変わりつつある中、暮らし方もさまざまに変化してきました。
　男女が、互いにいろいろ工夫しながら生活していく中で、大なり小なりお互いに気を使いながら生活をしているものです。しかし、時には、ついつい一言　言いたくなるようなこともよくあります。
「男として」「女として」・・・ふと感じる・・・けど「声を大にして言えない」そんな男女のホンネを聞かせていただきました。

男・女はつらいなあって思う時

妻に頼まれて、スーパーに行った時、知り合いに出会い「奥さん具合悪いの?」「奥さん、どこかに行ってるの?」と聞かれた。

彼女と食事に行くと男の自分が支払わないといけないと考えてしまう。自分は見栄っぱりかな。彼女と食事に行ったら、割り勘は言い出しにくい。

蛇が家に入ってきた。妻は「女はか弱い」と言わんばかりに叫び「蛇を外に出して！」俺だって蛇は気持ち悪いし恐い。男の手前、恐いと言いづらい。女は見栄を張らなくて良いが、男は辛い。

焼肉屋で、「大盛りご飯」と注文したいが、女の面子が、「並盛りご飯」と言った。この口が恨めしい。大和撫子は疲れる。

食事会に行って、大皿で料理がでてくると、「とりわけて!」とお願いされるのは、だいたい女性である。
特にバイキングは一緒に行く人を考えないと、まったく動かない男性もいて、ゆっくり自分が食べられない事もある。

女は、お行儀良くしていないといけないなど制約が多い。女は正座、男はあぐらで良い。

そりゃ子育ては夫婦の共同作業とは思いますが、どうしても男には出来ないことがあるんですよ。心の安定剤として、
　おっぱいをあげることだけは・・・
泣き騒ぐ子どもをいくらあやすにも、男には限界ってもんがあるんです。そこを無理強いしないでくださいな。40 代

家に帰るとたん、近所の話や愚痴をきかされて、適当に「フ～ン」と答えてはいるけど、せめて少し落ち着いてからにしてほしいなあ。50 代

女性なのに料理が下手とか、不器用とか言われたくないです。女性だって得意不得意はあるんですよ。40 代

仕事なんだから感情論で仕事話を持って来ないでくださいな。もっと論理的な説得材料を持ってきてもらわないと困りますなぁ・・・
　職場にて　40 代

チョット言わせてもらいます

妻は自分がほしいものは高いものでもすぐ買うのに、ほしいものがあって言うと、「それ変」とか言ってなかなか買ってくれない。おれにとっては、変じゃないんだけど・・・60 代

主人の趣味はパチンコのみ。
あとは家でごろごろ。
同じ趣味は持ちたくないけれど主人に趣味を持っていてほしいです。60 代

「家事と育児で大変」って夫に伝えると「がんばれがんばれ、君ならできる」と言われた。激励してほしいわけじゃないんだけど・・・30 代

公平じゃないって感じた時

妻の帰宅が遅く、先に帰った夫が夕飯の準備をしてくれており、いつも感謝しているが、帰宅したとたん「後は頼む」と交代する。最後まで一緒に家事したら、早くできるのに。やはり家事は女である妻が主担当か?

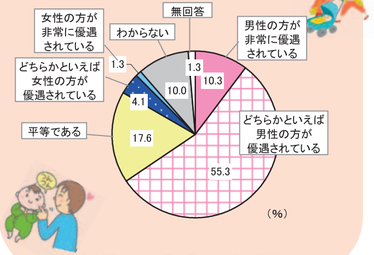
女は結婚するとき、多くは嫁に行くといい、夫の氏を名乗る。逆パターンもあるが、男性に抵抗があるのか?少ない。少子化する中で、今後の跡継ぎは難しい。女の子を抱える親は不利な気がする。

婿をとる結納グッズを調達に行った際、店員に「婿にきてもらう場合、大事にお育てになったのだから、上ランクの結納セットをおススメします!」娘でも、大事に育てたつもり・・・育てるほうは、男、女だからと育ててない気がする。

妻が残業するときは、その日の子どもの迎えから夕飯の準備を夫に頼み早めの連絡が必要だが、夫が残業するのは、連絡なしのやりたい放題。

妻は夫の先祖代々の墓に入るのが普通となっている。

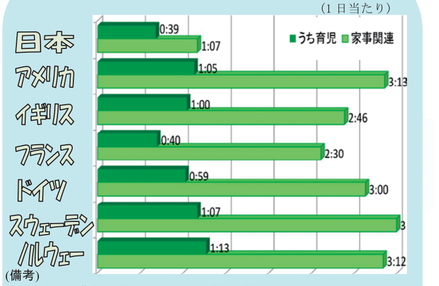
社会全体における男女の地位が“平等”と感じている人の割合



資料：H24 岩国市男女共同参画に関する市民意識調査

6 歳未満児のいる夫婦の夫の家事・育児時間

（1 日当たり）



（備考）
1．Eurostat ″How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men"(2004)
Bureau of Labor Statistics of the U.S.″America Time-Use Summary″(2006)
及び総務省「社会生活基本調査」(平成 23 年)より作成。
2．日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間です。

30 歳代　男性

たまたま、男である自分が仕事を持ち外へ出勤し、女である妻が専業主婦で家にいるのが我が家庭ですが、男女で反対の役割を持っている家庭もあるでしょうし、男女というより、それぞれの家庭で夫婦がそれぞれの役割を一生懸命果たすことが大事で、各々が一生懸命頑張っても、そこにはやはり限界があるということを常に認識し、祖父母等周囲の協力を得たり、**お互いの立場を思いやっていくより他に無いという気がします。**

50 歳代　女性

共働きの我が家ですが、現在は子どもから手を離れて気持ちに少し余裕が出てきたので、夫に対して以前より優しい気持ちで接することができるようになった気がします。今は、思ったことはお腹にためないで言葉で伝えるようにしています。これまでは「言ってまでやってもらわなくても良い」と思っていましたが、夫に気づいてもらえないときはきちんと指摘してやってもらうようにしています。言えばやってくれます。言わないと気づかないので、**お互いのためにできるだけコミュニケーションを取ってうまくやっていきたいと思っています。**

男女共同参画社会の実現に向けての課題の一つに、人々の意識の中に長い時間をかけてつくられてきた「性別による固定的役割分担意識」があります。

この「性別による固定的役割分担意識」とは、男性、女性という性別を理由にして役割を決めることです。例えば、「男は外で仕事を行い　女は家庭を守る」や「男は主要業務を行い　女はお茶くみなど補助的業務を行う」などが挙げられます。

一人ひとりに、それぞれの個性や能力、その人らしさがあります。男だから女だからと枠をはめずに自分の意思に従って様々な生き方を尊重することが大切です。

また、「女らしさ」や「男らしさ」のイメージに縛られ過ぎると、生き方が狭められたり、窮屈に感じたり、公平感を損なうこともあります。男らしく女らしくではなく、私らしくあなたらしく生きられる社会をみんなでつくりましょう。

家事場のパパチカラ

内閣府男女共同参画室

平成 26 年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ最優秀作品

山口県野田学園平成 25 年度 4 年 C 組